

ジャン・プルーヴェ研究 その5

TOTAL サービスステーションにおける矩形状建物

TOTAL サービスステーション 矩形状建物 ガスケット

正会員 ○岩岡 竜夫*1

同 石田 潤*2

同 河辺 哲雄*3

1 はじめに

本編では、TOTAL サービスステーションにおける主に矩形状建物に関して発表する。この矩形状建物は、敷地の左方奥に位置し、主に車体修理所および倉庫として計画された¹⁾²⁾。

註 *1…前編図1の全体配置図による *2…石田信談より

2 矩形状建物について

図1は矩形状建物のスケッチであり、矩形の平面寸法は4500×8900である。緑で書かれた太いラインの線はこの建物の構造体(骨組)を示すものであると思われる。

図2は屋根伏図であり、1枚が900×4000の波状のアルミ板で、9枚で屋根を構成している。

図3は立面のスケッチで、外壁パネルが横張りであることが分かる。またスケッチ内に「BAIE PANNEAUTAGE avec chapeute」とあることから、この外壁パネルは、骨組みと一体化しているパネルではないと思われる。図6の断面詳細には、ガスケットとガスケットの間に鉄筋のような部材が入っていることがうかがえる。また、図3の下部に「solution email」と書かれているなどから、外壁パネルは断熱材が充填されたホーロー鉄板によるサンドイッチパネルであると思われる。

図4および図5は、外壁の断面を示しており、屋根と壁の取り合いの部分のデザインを検討しているスケッチである。それぞれ端部に見られる折り畳まれた部位は、ネオプレーンガスケットの一種で、プルーヴェは開口部や外壁端部などに好んでよく使っていたという²⁾。

図6は外壁パネルと外壁パネルの接合部の断面で、パネルの端部はそれぞれ丸みを帯びている。

図7は外壁パネルの平面詳細であると思われる、柱が角鋼の場合とH鋼の場合のパネルとの接合部のディテールを検討している。どちらも端部はガスケットであるが、H鋼の場合はH鋼がガスケットに組み込まれている。また図7に書かれた「2.7m²」は、外壁パネル一枚の面積であり、このことから、パネルの大きさは1000×2700であることが分かる。

図8～10は模型写真である。外壁面には水平胴縁としての骨組材が入っていないことが分かる。

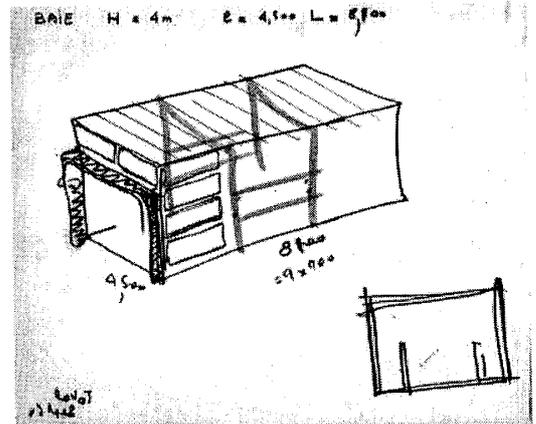


図1 矩形状建物の外観(スケッチ) 208×265
トレーシングペーパー/サインペン・マーカー(緑)

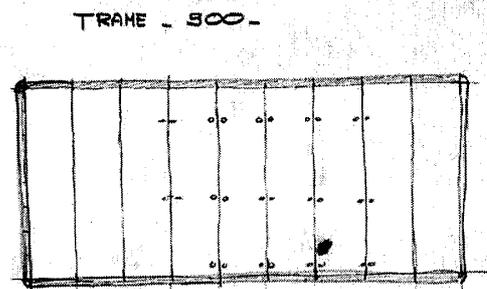


図2 矩形状建物の屋根伏図(スケッチ) 208×265
トレーシングペーパー/サインペン・マーカー(緑)

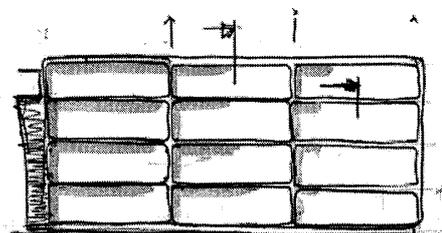


図3 矩形状建物の立面図(スケッチ) 208×265
トレーシングペーパー/サインペン・マーカー(緑)

Study on Jean PROUVÉ, Part 5

The rectangle-shaped building of building for TOTAL Service station

KAWABE Tetsuo, ISHIDA Jun and IWAOKA Tatsuo

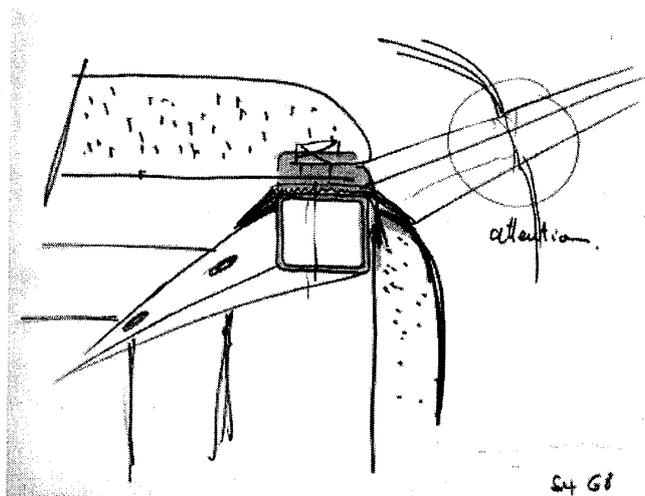


図4 矩形状建物の断面詳細図 (スケッチ) 208 × 268
トレーシングペーパー/サインペン・マーカー (オレンジ・緑)

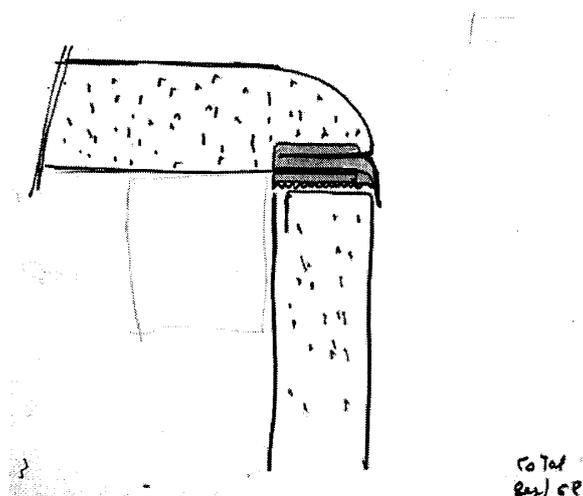


図5 矩形状建物の断面詳細図 (スケッチ) 208 × 268
トレーシングペーパー/サインペン・マーカー (オレンジ)

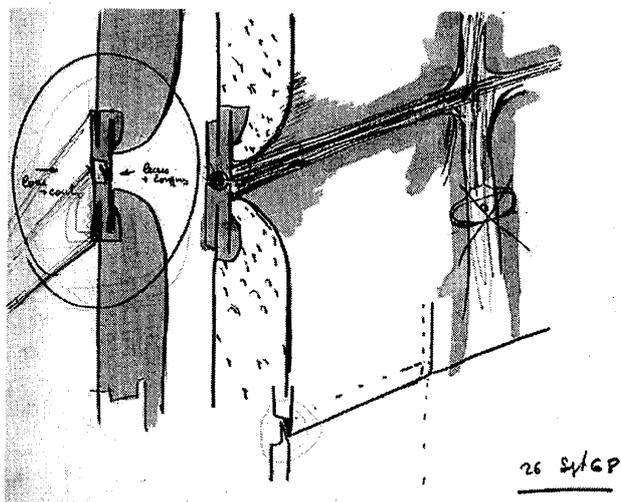


図6 矩形状建物の断面詳細図 (スケッチ) 208 × 268
トレーシングペーパー/サインペン・マーカー (オレンジ・緑)

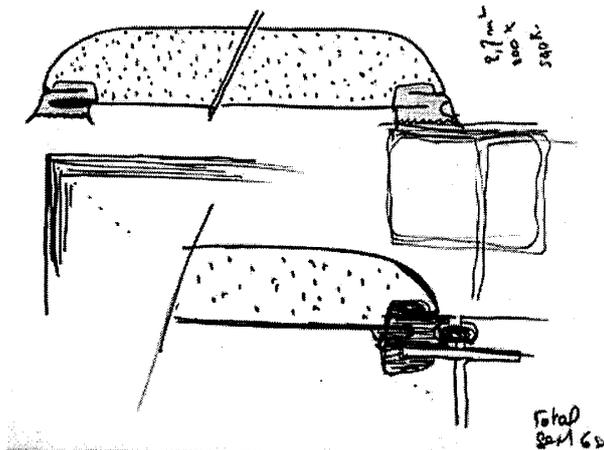


図7 矩形状建物の平面詳細図 (スケッチ) 208 × 265
トレーシングペーパー/サインペン・赤鉛筆

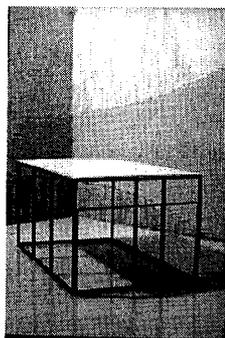


図8 模型写真 (スライド)

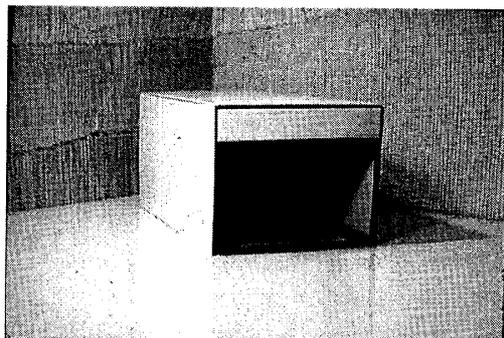


図9 模型写真 (スライド)



図10 模型写真 (スライド)

*1 東海大学助教授
*2 LINK 建築設計工房
*3 河辺哲雄設計室